

あつという間にうまくなる 神経ブロック上達術

本書は、神経ブロックの上達のために必要な解剖やテクニックを纏めた書物である。ページを開けてみると、本書の目指すところが明確に示されている。神経ブロックの初心者では正確にブロックができるようになることを目標とし、経験者には確実にスピーディーに行うためのノウハウが示されている。さらに初心者から上級者に至るまでの習熟度によって習得すべきブロック法が記載されている。加えてよくある手術と神経ブロックの組み合わせから必要な神経ブロックを簡単に調べられるような工夫をしている。このような日常臨床に即した的確な視点から整理し、出版の労をとられた執筆者や編集者に敬意を表したい。本書の特徴は、第1にその執筆陣の臨床経験の豊富さにある。三井記念病院は本邦における第一線の急性期病院であり、執筆者も学会で著名な先生方である。本書から彼らが臨床に情熱を注いでいることが容易に想像でき、従来の書籍にはない、経験で磨かれた技術と判断が十分に感じ取れる。第2に各章いずれの内容も見開き1~2ページに集約されており、最重要ポイントにしぼった内容の濃い構成となっている。

第1章「手術別：神経ブロックの適応」では、各種手術の適応となる神経ブロックと局所麻酔薬の例を示し、手術ごとに重要ポイントを示している。ブロック例は赤字で、ポイントは青字で簡潔に解説されており、きわめて見易い構成になっている。第2章「末梢神経ブロック各論」では、日常臨床で用いる神経ブロックの解剖、適応手術例、ブロック方法が述べられている。神経ブロックには鮮明なエコー画像が示されており、上段にエコー像、下段に描出されたエコー像の解剖が示されており、大変解り易い構成になっている。また、ランドマーク法による神経ブロックの方法も述べられており参考になる。コラムでは実際の症例を提示し、その効果を解説する例や鎮静の是非、ブロックの落とし穴などが記述されており興味深い。第3章



- ・真興交易 (株) 医書出版部
- ・2014年9月15日 第1版第1刷発行©
- ・B5判/208頁/並製本
- ・定価 (本体6,200円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-885-8

「神経ブロック総論」では主に神経ブロックの合併症とその対策を中心に論じられている。術前抗凝固療法を行っている患者の増加によって硬膜外ブロックや脊髄くも膜下ブロックなどの中枢神経ブロックが減少し、末梢神経ブロックの頻度は増加すると考えられるが、本章では中枢神経ブロックと末梢神経ブロックの禁忌と各種抗凝固薬について、次いで局所麻酔薬の神経内注入と神経損傷について詳しく解説している。また、安全にブロックするためのブロック針の操作法、プレスキャンの重要性、神経刺激装置の併用、知っておくべき局所麻酔薬の特徴が網羅されている。また、最も重篤な合併症である局所麻酔中毒についての診断と治療についてASRA局所麻酔薬治療チェックリストを掲載して解説しているのが嬉しい。最後に三井記念病院麻酔科で使用している末梢神経ブロック針を明示し、その穿刺法の実際について解り易く解説している。本書は、末梢神経ブロックに必要な知識、テクニックやそのノウハウが満載である。ベテラン麻酔科医のみならず、今後、麻酔科専門医試験を目指す若手麻酔科医、研修医、医学部学生にも一読して欲しい本である。

鈴木利保

(東海大学医学部医学科外科学系麻酔科)